

【07】マハーマーヤーの死

マハーマーヤー (Mahāmāyā) が菩薩を産んで7日後に死ぬ。

[A] 原始聖典

- ①DN.014 ‘Mahāpadāna-s.’ (大本經 vol. II p.014) ; 菩薩の誕生後7日に、菩薩の母は死んで、兜率天に生まれる (sattāha-jāte Bodhisatte Bodhisatta-mātā kālaṃ karoti, Tusitaṃ kāyaṃ uppajati.) というのは決まった法である。
- ① ‘Udāna’ (p.048) ; 世尊の母は世尊が生まれて7日に亡くなり、兜率天に生まれた (sattāhajāte bhagavati bhagavato mātā kālaṃ akāsi Tusitakāyaṃ upapajati) 。
- ① ‘Theragāthā’ Vs.534 (p.057) ; Suddhodanaは大仙人(釈尊)の父、Māyāは仏陀の母、菩薩を母胎によって守り (bodhisattaṃ parihariya kucchinā) 、死んで三十三天において楽しんだ。
- ⑧五分律「比丘尼法」(大正22 p.185下) ; 仏生少日母便命終。瞿曇彌乳養世尊至于長大。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.109上) ; 菩薩常法、其菩薩母産菩薩已、七日命終生三十三天。
- ⑩根本有部律「雜事」(大正24 p.405上) ; 大世主是仏姨母、摩耶夫人生仏七日便即命終、世主親自乳養。
- ⑫法天訳「七仏経」(大正01 p.153上) ; 彼菩薩摩訶薩從兜率天下降閻浮陁母胎時、母自受持近事五戒。一不殺生、二不偷盜、三不婬欲、四不妄話、五不飲酒。於其右脇誕生。菩薩母後命終生天界中。
- ⑫慧簡訳「仏母般泥洹経」(大正02 p.869中) ; 仏生七日太后薨。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.052, 南伝28 p.109) ; 菩薩の宿られた母胎は祠の奥殿のようで、他の人がそれに宿ったり用いたりすることは出来ない。それ故菩薩の母は、菩薩の誕生後七日目に死んで兜率天に生まれるのである。……これが菩薩の母の常法である。
- ②修行(大正03 p.465上) ; 太子生七日、其母命終。以懷天師功德大故、生切利天。
- ④瑞応(大正03 p.474中) ; 適生七日、其母命終。以懷天人師功福大故、上生切利、封受自然。菩薩本知母人之德不堪受其禮故、因其將終、而從之生。
- ⑤異出(大正03 p.618中) ; 太子生七日、其母終矣。
- ⑥普曜(大正03 p.494下) ; 於時菩薩生七日後、其母命終。……母七日終、所以者何。菩薩生時。母根身具無有缺漏、応受切利天上功祚服食、上切利天、適昇彼天。
- ⑦方広(大正03 p.555下) ; 菩薩初生滿七日已、摩耶聖后、即便命終、生三十三天。
- ⑧LV. (Lef. p.098, 外蘭・梵 p.470, 外蘭・訳 p.836) ; 菩薩が生まれて七日を過ぎたる時 (saptarātra jātasya bodhisattvasya) 、母なるマーヤー (Māyā) 妃は命終せり。彼女は命終して三十三天に生まれたり。……何となれば、〔胎内にて〕生長せる菩薩が、諸感官を円満具足して出家<sup>(1)</sup>する時、母の心臓の破裂すべき〔は当然なる〕が故に……。
- ⑩仏讚(大正04 p.004中) ; 時摩耶夫人 見其所生子 端正如天童 衆美悉備足 過喜不自勝 命終生天上
- ⑫BC. (02-18) ; ……王妃マーヤー (Māyā) は、神々、聖仙にも等しきこの息子の放つ広大な威光を見て、湧き出づる歡喜を抑ええぬままに、天に居を構えんと昇天してしまった。
- ⑭過去(大正03 p.627下) ; 太子既生、始滿七日、其母命終。以懷太子功德大故、上生切利、封受自然。太子自知。
- ⑮集経(大正03 p.701上) ; 爾時太子、既以誕生、適滿七日。其太子母摩耶夫人、……以力薄故、……遂便命終。或有師言、……菩薩幼年出家、母見是事、其心碎裂。……薩婆多師、……見所生

子、……端正可喜、以不勝故、命終之後、即便往生切利天上。

⑰衆許（大正03 p.940下）；爾時摩訶摩耶生太子已七日命終生切利天受五欲樂。

[C] 後世の仏伝資料

①釈迦（大正50 p.005下）；菩薩七日後其母命終。（出普曜經）

①釈迦（大正50 p.018下）；太子既生始滿七日、其母命終。（出因果經）

③氏譜（大正50 p.090上）；太子本起云。……普曜云。……大權經云。福尽生天非菩薩咎。前処兜率觀后余命。十月七日故託神來。

④統紀（大正49 p.142中）；太子生滿七日其母命終。以懷太子功德大故上生切利……。

⑤JM. (p.026, 畑中 p.101) ；菩薩が誕生してから7日後、マハーマーヤー (Mahāmāyā) 王妃は、もはや他の人々とは同じではない事により、ヴェーサーカ月の黒分7日目に (Visākhamāse kāḷa-pakkhassa sattamiyaṃ) 死んで兜率天に生まれた。

⑥Bigandet. (vol. I p.047, 赤沼 p.064) ；命名式の二日目、即ち降誕の七日目に母后摩耶夫人は崩御せられた。

(1) 外蘭訳は「出生するとき」とするが、テキストに ‘abhinīṣkrāmato’ とあり、これを「出家するとき」と解して訂正した。

[08] マハーパジャーパティー乳母となる

マハーマーヤーの妹であるマハーパジャーパティー (Mahāpajāpatī Gotamī) が乳母となって、菩薩を育てる。

[A] 原始聖典

①MN.142 ‘Dakkhiṇāvibhaṅga-s.’ (vol.III p.253) ；マハーパジャーパティー・ゴータミーは叔母でうば、養母、乳母にして、世尊の生母が亡くなってから母乳を飲ませてきた (Mahāpajāpatī Gotamī bhagavato mātucchā āpādikā posikā khīrassa dāyikā bhagavantam janettiyā kālakatāya thaṅṅam pāyesi) 。

①AN.08-051 (vol.IV p.276) ；同上

① ‘Apadāna’ 04-02-017 (p.529) ；マハーゴータミーは勝者の乳母である (jinassa mātucchā Mahāgotamī bhikkhunī) 。（p.534、537にも同様の文章あり）

①Vinaya ‘Bhikkhunikkhanda’ (vol.II p.254) ；マハーパジャーパティー・ゴータミーは叔母でうば、養母、乳母にして、世尊の生母が亡くなってから母乳を飲ませてきた (Mahāpajāpatī Gotamī bhagavato mātucchā āpādikā posikā khīrassa dāyikā bhagavantam janettiyā kālakatāya thaṅṅam pāyesi) 。

①Vinaya ‘Pañcasatikakkhandhaka’ (vol.II p.289) ；同上

③中阿含116「瞿曇彌經」（大正01 p.605下）；瞿曇彌大愛為世尊多所饒益。所以者何、世尊母亡後、瞿曇彌大愛鞠養世尊。

③中阿含180「瞿曇彌經」（大正01 p.722上）；此大生主瞿曇彌於世尊多所饒益。世尊母命終後乳養世尊。

⑦四分律「比丘尼毘度」（大正22 p.923上）；摩訶波闍波提於仏有大恩。仏母命過乳養世尊長大。

⑧五分律「比丘尼法」（大正22 p.185下）；仏生少日母便命終。瞿曇彌乳養世尊至于長大。

⑩根本有部律「破僧事」（大正24 p.109中）；時彼孀母即前捧抱太子。

- ⑩根本有部律「雜事」（大正24 p.350下）；是大世主於世尊處誠有大恩。仏母命終乳養至大、豈不世尊慈悲摂受。
- ⑪根本有部律「雜事」（大正24 p.405上）；然大世主是仏姨母、摩耶夫人生仏七日便即命終、世主親自乳養、既有深恩豈得不報。
- ⑫慧簡訳「仏母般泥洹經」（大正02 p.869中）；大愛道比丘尼者即從仏母也。

[B] 仏伝經典

- ⑥普曜（大正03 p.495上）；又今太子転当長大。……大愛道則然可之。
- ⑦方広（大正03 p.556上）；時輪檀王召諸親族長徳……善來夫人当為其母。摩訶波闍波提奉王勅已。
- ⑧LV. (Lef. p.100, 外蘭・梵 p.474, 外蘭・訳 p.837)；その時、彼ら、シャーキャ (Śākya) 族の長老たちは集いて、かくの如き談義をなせり。「さて、如何なる女人が、利益心あり慈悲心あり……菩薩を保護し世話し、養育することを得んや。」……このマハープラジャーパティ・ガウタミー (Mahāprajāpatī Gautamī) は、王子の母方の叔母にして、彼女ならば、王子を真に幸福に愛育することを得ん……」
- ⑩十二（大正04 p.146下）；難陀母名瞿曇彌。
- ⑪仏讚（大正04 p.004中）；大愛瞿曇彌 見太子天童 徳貌世奇挺 既生母命終 愛育如其子 子敬亦如母
- ⑫BC. (02-19)；そこで、神々の胤のごときこの王子を、実母に等しい威厳をそなえた母の妹は、産みの親にも劣らぬ愛情と心根をもってわが子のごとく育てあげた。
- ⑬過去（大正03 p.627下）；爾時太子姨母摩訶波闍波提、乳養太子、如母無異。
- ⑭集経（大正03 p.701中）；時浄飯王、見其摩耶国大夫人、命終之後、即便喚召諸积種親年徳長者。……彼諸积種、一切和合、勸彼摩訶波闍波提為母養育。時浄飯王、即將太子、付囑姨母摩訶波闍波提。

[C] 後世の仏伝資料

- ①积迦（大正50 p.005下）；或有説言。太子年幼誰能養育。唯大愛道能使長大耳。大愛道者。太子姨母清浄無夫。時白浄王詣大愛道乳哺令長。
- ④統紀（大正49 p.142下）；時姨母摩訶波闍波提。乳養太子如母無異。

【09-01】太子の教育——学問

菩薩が7歳（あるいは8歳）となって学堂に上ると、すでに64種の書体などの学問を習得していたので、師を驚かせる。

[A] 原始聖典

- ④雜阿含604（大正02 p.167上）；此處菩薩学堂。
- ⑪根本有部律「破僧事」（大正24 p.110中）；菩薩生時有常法式。若欲入学以五百侍從童子令隨。菩薩學習書業時有博士名彩光甲、明解五百種書……。
- \*⑦四分律「受戒捷度」（大正22 p.782下）；（定光菩薩）年向八歳九歳、時王教菩薩学種種技術、書算数印画戲笑歌舞鼓弦乘象乘馬乘車射御膂力、一切技術無不貫練。
- \*⑦四分律「雜捷度」（大正22 p.950下）；（积尊の前世の慧灯王）至年八九歳、其母教学諸伎芸書画算数戲笑歌舞伎楽、象馬騎乘車、学射勇健捷疾、於諸技芸皆悉綜練。

[B] 仏伝經典

- ②修行（大正03 p.465上）；有一臣言、唯教書疏、用繫志意。即與其僕五百人俱、共詣師門。…  
…太子問言、此為何人。臣言、是国教書師也。太子問言、閻浮提書凡有六十四種、……今用何書。  
……梵志惶怖、答太子言、六十四種、己所未聞、唯持二書。
- ④瑞応（大正03 p.474中）；及至七歳、而索学書、乘羊車詣師門。時去聖久、書缺二字。以問於  
師、師不能達、反啓其志。
- ⑥普曜（大正03 p.498上）；爾時太子厥年七歳、……菩薩乘羊車將詣書師、……師名選友。時見  
威神光曜、不能堪任、即僻墮地。……問師選友、今師何書而相教乎。其師答曰、以梵法留而相教  
耳。……菩薩答曰、其異書者有六十四。……
- ⑦方広（大正03 p.559上）；菩薩年始七歳、……爾時菩薩將昇学堂。博士毘奢蜜多、……自顧不  
任為菩薩師、……迷悶躡地。……六十四書、欲以何書而相教乎。
- ⑧LV. (Lef. p.123, 外蘭・梵 p.522, 外蘭・訳 p.878)；王子が成長して適齡に達したる時、  
百千の祝賀を為すとともに王子を学堂に往詣せしめたり。菩薩が学堂に入るや否や、兒童の師な  
るヴィシュヴァーミトラ (Viśvāmitra) は、菩薩の光輝と威光に堪えず顔を伏せて地面に倒れた  
り。……「六十四の文字の中のいずれをわれに学ばしめんとするや」。
- ⑩仏讚（大正04 p.004中）；修学諸術藝 一聞超師匠
- ⑫BC. (02-24) 幼年期を過ごしたあと、時いたって然るべく入門の儀式を享けると、彼は自分のよ  
きお家柄にふさわしかるべき学問を身に付けたが、（普通なら）多年を要すべきものをわずかの  
日数のうちに修得してしまった。
- ⑬行経（大正04 p.062上）；時過孩童 初入在美 世人所習 衆諸技術 太子学能 不加日劳  
年満十六 體方精健 文武兼備 藝過諸积
- ⑭過去（大正03 p.627下）；至年七歳、父王心念、太子已大、宜令学書。訪覓國中聡明婆羅門善  
諸書藝、請使令来以教太子。爾時有一婆羅門、名跋陀羅尼、……以四十九書字之本、教令誦之。
- ⑮集経（大正03 p.703中）；時淨飯王、知其太子年已八歳、即会百官……堪為太子作於師匠。…  
…今有毘奢婆蜜多羅。……此書凡有六十四種。……
- ⑯集経（大正03 p.705中）；年満八歳、……入於学堂、從毘奢蜜及忍天所、……受誦諸書。
- ⑰衆許（大正03 p.941下）；菩薩在王宮時、與五百眷属入学讀書。爾時本師將第一書令太子誦、  
太子告言、此書我解。……第二書、……五百種書……。爾時太子即自写書令師誦之。……太子告  
曰、此是梵書。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.006上）；太子年七歳、……乘羊車將詣書師。（出普曜経）
- ①釈迦（大正50 p.019上）；太子至年七歳、父王心念、太子已大……。 （出因果経）
- ②歴代（大正49 p.023中）；仏至僖王元年庚子年七、乘羊車詣学堂。
- ②歴代（大正49 p.024）；普曜経第三卷云。悉達太子年七歳乘羊車詣学堂就師。
- ③氏譜（大正50 p.090上）；経云。太子七歳、王召選友為太子師。……普曜経云。……凡諸技芸  
典籍射御。天文算術自然知之。
- ④統紀（大正49 p.143上）；三十二年(庚申) 太子年七歳、王令学書……名曰選友。……太子問師、  
書有幾種。師默不答、内懷慚愧禮太子足。……凡技芸典籍天文地理算数射御、皆悉自然知之。

【09-02】太子の教育——種々の競技

武術を学ばない菩薩を心配する人々に、菩薩が弓術・角力などにおいて勇健であることを知らしめる (1)。

[A] 原始聖典

- ④雑阿含604 (大正02 p.167上) ; 此処学乘象。此処学乘馬乗車弓弩、如是学一切伎術処。
- ⑧五分律「衣法」 (大正22 p.141上) ; (波斯匿王の言葉) 仏為菩薩時射一由旬又一拘楼舍。釈摩南射一由旬。最下手者不減一拘楼舍。
- ⑪根本有部律「破僧事」 (大正24 p.111上) ; 爾時薛舍離城諸人得一好象、形貌具足。諸人共集邇相議曰。其淨飯王有一太子、天文占相。以後之時必為金輪聖王。由彼威德現此宝象。令使数人将此宝象献此釈迦太子。諸人当即莊嚴彼象、将向劫比羅城漸行到彼。至於淨飯王宮門外。爾時惡性提婆達多王子從於内出見彼宝象種種莊嚴、心貪愛念……。爾時釈迦童子邇相謂曰。我等出外作輪刀断樹之樂……。時諸童子復與菩薩聞諸弓射。以七重鐵多羅樹并七鐵鼓、其間各安鐵猪而為射垛……。其城門傍有諸相者遙見菩薩威光殊特競相謂曰。今此太子若却後十二年中不出家者必当登彼轉輪王位。

[B] 仏伝経典

- ①NK. (vol. I p.058, 南伝28 p.123) ; (結婚の後) 或日のこと、同族の集まりの中で斯ういう話が出た。「悉達 (Siddhatta シッタッタ) は、……何一つとして芸を習わないが、もし戦が始まったら如何するのであろう」……「都中に……『……〔私の〕芸を御覧に入れる』と触れ廻らせて下さい」……菩薩は……他の弓術士の真似の出来ない十二とおりの芸を見せられた。……そこで同族〔の人たち〕は疑いを懐かなくなった。
- ④瑞応 (大正03 p.474中) ; 至年十歳。……太子有従伯仲之子兄弟二人、長名調達、其次曰難陀。……請戲後園、的附鉄鼓、……久後又請、手搏於王前、……二人久後復請柅力。難陀、前牽鼻象、擣之至庭。調達力壯、挽而撲之。太子含笑、……举擲牆外。
- ⑭過去 (大正03 p.628中) ; 爾時太子至年十歳。……時提婆達多等五百童子、……共相謂言。太子雖復聡明智慧、善解書論、至於力臂、詎勝我等、欲與太子較其勇健。……有一大象、当城門住。……弓……相撲……白淨王太子、……其力勇健亦無等者。
- ⑰衆許 (大正03 p.942上) ; 爾時毘舍離城有一大象。……即馳獻此象而充貢獻。……提婆達多……心生嫉妬、……殺象命終。……弓射。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.019中) ; 爾時太子年至十歳、諸釈種中五百童子皆亦同年。(出因果経)
- ②歴代 (大正49 p.023中) ; 四年癸卯年十、與諸同齒釈族試力。
- ③氏譜 (大正50 p.090上) ; 経云。……至年十歳従弟調達與五百釈童相謂曰。太子聡慧善明書論、至於筋力詎勝我等請共擗之……。
- ④統紀 (大正49 p.143中) ; 三十五年(癸亥) 太子年十歳。(出因果経)
- ⑥Bigandet. (vol. I p.052, 赤沼 p.070) ; 一族の人人は太子の行為に就いていろいろ陰口をきいていた。……然るべき人に相応しい文武の諸芸におろそかに日を送り給うは宜しくないという非難であった。……太子は……「……我が一族の者共に、私が既に文武の十八芸に精通していることを示すであります。」

(1) 結婚と関連させているものは「【12-02】結婚——婿選びの種々の競技」に入れた。

【10】提婆達多が射た雁を助ける

提婆達多 (Devadatta) が弓で射殺した雁を菩薩が助ける。これにより提婆達多に遺恨が生じる。

[A] 原始聖典

- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.112中) ; 時有一雁飛空而度。提婆達多、即挽其弓射之、令落其雁。落在菩薩座前。菩薩爾時、収捧其雁為拔其箭、以藥療之、時平復。

[B] 仏伝經典

- ⑮集經(大正03 p.705中) ; 經歷四年、至十二時、……在勤劬園、遨遊射戲。……時有群鴈、行飛虛空。是時童子提婆達多、彎弓而射、即着一鴈。……時太子見彼鴈帶箭被傷墮地、……右手拔箭、即以酥蜜、封於其瘡。
- ⑰衆許(大正03 p.942下) ; 爾時迦毘羅城不遠、有一大河名嚕賀迦。……嚕賀迦河旁有園苑、……往彼園中隨意遊戲。時提婆達多見一飛鵝從空而過、挽弓仰射墮太子前。太子見之……與拔其箭放鵝飛去。

[C] 後世の仏伝資料

- ④統紀(大正49 p.143中) ; 三十三年(辛酉)太子在苑射戲。提婆達多、射著一雁、墮於苑中。太子拔箭以酥密封瘡。……自此與達多結怨相競。

【11】樹下の禪定

種蒔き式のと、菩薩が閻浮樹下で禪定に入ると、菩薩にかかった樹影が時間を経過しても移らないでいる。

[A] 原始聖典

- ①MN.036 'Mahāsaccaka-s.' (vol. I p.246) ; 私は釈迦族の父の行事中、畔のジャンプー樹の日影に (jambucchāyāya) 坐して初禪定を得ていた (paṭhamaṃ jhānaṃ upasampajja viharitā) のを思い出す。
- ①MN.085 'Bodhirājakumāra-s.' (vol. II p.093) ; 同上
- ①MN.100 'Saṅgārava-s.' (vol. II p.212) ; 同上
- ③中阿含032「未曾有經」(大正01 p.470下) ; 世尊一時在父白淨王家、昼監田作坐閻浮樹下、離欲離惡不善之法。有覺有觀、離生喜樂得初禪成就遊。爾時中後一切余樹影皆轉移、唯閻浮樹其影不移蔭世尊身。……世尊一時遊鞞舍離大林之中……往入林中至一哆羅樹下、敷尼師檀結加趺坐。是時中後一切余樹影皆轉移、唯哆羅樹其影不移蔭世尊身。……世尊一時遊跋耆中在温泉林娑羅樹王下坐。爾時中後一切余樹影皆轉移、唯娑羅樹王其影不移蔭世尊身。
- ③中阿含117「柔軟經」(大正01 p.607下) ; 我復憶昔時看田作人止息田上、往詣閻浮樹下結跏趺坐、離欲離惡不善之法。有覺有觀、離生喜樂得初禪成就遊。
- ④雜阿含604(大正02 p.167上) ; 此處菩薩坐閻浮提樹下坐禪得離欲、樹影不離身。
- ⑦四分律「受戒捷度」(大正22 p.781上) ; 爾時菩薩自念。昔在父王田上坐閻浮樹下、除去欲心惡不善法。有覺有觀喜樂一心、遊戲初禪。時菩薩復作是念。頗有如此道可從得盡苦原耶。復作是念。如此道能盡苦原……。

- ①根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.719上）；菩薩曾往田中觀諸產業於瞻部樹影結跏而坐、遠離欲界惡不善法、有尋有伺得喜樂定、入初靜慮。日已過午、其余諸樹影悉東垂。唯瞻部樹影而獨不移蔭菩薩身。
- ①根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦003」（大正23 p.950中）；復菩薩曾往田中觀諸產業、於瞻部樹影結加而坐、遠離欲界惡不善法、有尋有伺得喜樂定入初靜慮。日已過午、其余諸樹影悉東移、唯瞻部樹陰而獨不移、以覆蔭菩薩身。
- ①根本有部律「業事」（大正24 p.032中）；爾時世尊復至犁地村聚落告具壽阿難陀曰。我為菩薩時遊行父王聚落至一瞻部樹下思惟入定證得初禪無漏。
- ①根本有部律「破僧事」（大正24 p.114上）；爾時菩薩復漸前行、至犁田村見彼耕人、塵土全身遍體流汗。手執牛杖盡皆有血……。從車而下、於瞻部樹間、入第一無漏相似三昧……。一切林影皆隨日轉、唯太子所坐之樹、猶蔭太子、其陰不移。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.057, 南伝28 p.121)；さて、或日のこと、王は種蒔きの式を行うた。……菩薩は……誰もいないのに気づき、……第一禪定に入られた。……（樹影の奇瑞）……王は……その不思議を見、……王子を礼拝した。
- ②修行（大正03 p.467中）；有一臣言。宜令太子監農種殖、役其意思、使不念道。……太子坐閻浮樹下、見耕者墾壤出蟲、……鳥隨啄吞。……菩薩見此衆生品類展轉相吞、慈心愍傷、即於樹下得第一禪。日光赫奕、樹為曲枝、隨蔭其軀。……王……不識下馬、為作禮時。
- ④瑞応（大正03 p.475中）；到於王田閻浮樹下。……王因自到田上、遙見太子、坐於樹下。日光赫烈、樹為曲枝。隨蔭其軀。……王知其志固、惘然不知所言、便自還宮。於是……太子、攀樹枝見耕者、墾壤出蟲。……觀見人間、上至二十八天、貴極而無道。
- ⑤異出（大正03 p.619中）；自到王家佃上。……王即自到佃舍、遙見太子坐樹下。……樹曲其枝叶扇之。不得令日光照太子。……太子在樹下、專精長思惟累劫之事、上至三十三天、下至十六泥犁、無一可者。見田中犁者、出土中蟲。……太子歎曰、人生地上、死当入泥犁、不亦苦乎。
- ⑥普曜（大正03 p.499上）；爾時太子年遂長大。啓其父王、與群臣俱行至村落、觀耕犁者。……則在彼樹蔭涼下坐、一心禪思三昧正定、以為第一。……爾時日照樹曲覆菩薩身。
- ⑦方広（大正03 p.560中）；菩薩年漸長大。共諸穉子出城遊……至園中、見諸農夫勤勞執役、……乃見園中有閻浮樹。……菩薩爾時、於彼樹下結加趺坐。……住初禪……住二禪……住三禪……住四禪。……唯閻浮之影湛然不移。
- ⑧LV. (Lef. p.128, 外蘭・梵 p.534, 外蘭・訳 p.888)；王子は次第に成長せり。……ある時に、王子は、……と共に農村を見るべく外出せり。農作業を見たるのち、ある園林に入れり。……ジャンプ樹（Jambuvṛkṣa）を見たり。菩薩は、その影に、結跏して坐せり。坐して、また、菩薩は<心一境性>を得たり。……初禪……第四禪に達して〔その境地に〕安住せり。
- ①仏讚（大正04 p.008下）；出城遊園林 …… 路傍見耕人 墾壤殺諸虫 其心生悲惻 …… 自蔭閻浮樹 端坐正思惟 …… 入初無漏禪 …… 正受三摩提
- ②BC. (05-08)；彼は心のなかで何事にも煩わされず、ひとりになりたいと思い、隨行の友だちを払って……ジャンプ（Jambu）の大木（閻浮樹）の根元に近づいた。……に坐し、この世の生滅を思いながら、心を安住させる方途によりどころを求めた。するとまもなく心の安住に到達し、……第一の静かな瞑想恍惚境に達した。
- ③行經（大正04 p.066上）；菩薩於是時 …… 過到遊觀園 …… 時見農田夫 …… 心思計無常 趣閻浮樹下 …… 坐思堅不動 …… 平等速一禪 …… 乃至第四禪 …… 日時轉向夕 諸樹蔭移徙 唯閻浮樹影 如蓋覆太子

- ⑭過去（大正03 p.629上）；爾時太子、啓王出遊。…… 到王田所、即便止息、閻浮樹下、看諸耕人。…… 得四禪地。日光昕赫、樹為曲枝、隨蔭太子。
- ⑮集經（大正03 p.705下）；淨飯王、…… 并将太子、出外野遊、觀看田種。…… 觀田作已、…… 還入一園。……一処、有閻浮樹。…… 到樹下已、即於草上、加趺而坐。…… 即得初禪。
- ⑯MV. (vol. II p.045, Jones II p.042)；シュッドーダナ（Śuddhodana）王や王子は遊園に散歩に出掛け、犁作業で蛇や蛙が掘り出されるのを見る。菩薩はジャンブ（Jambu）樹の影に坐る。日が動いても影は彼から離れない。彼はそこで第一禪に入った。
- ⑰衆許（大正03 p.944中）；爾時太子……至迦里沙迦聚落之界、見有多人、各執牛具苦力耕種。……即往閻浮樹下、結跏趺坐而入禪定。……日色雖轉樹影不移。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.020中）；爾時太子啓王出遊。（出因果經）
- ③氏譜（大正50 p.090中）；經云。太子出遊前至王田、息閻浮樹。日光輝赫、樹為曲枝蔭太子身。看諸耕人……見已起慈速得四禪。
- ④統紀（大正49 p.143下）；四十一年(己巳)太子啓王出遊。前至王田、息閻浮樹下、見諸耕人。……見已悲愍、即便思惟。得四禪地……一切樹影悉移。唯此樹陰覆太子身。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.050, 赤沼 p.067)；或る日、広野に耕耘の祭が行われた。……菩薩は周囲を見廻し、御附のもの誰も居ないのを見て、急に起き上がり、床上に結跏趺坐して観念を凝し給うた。

【12-01】結婚----妃の選択

淨飯王が菩薩の気に入った女性を妃にしようとする。女性の名にはヤソーダラー（Yasodharā）、ゴーパー（Gopā）等が挙げられる。妃を1人とするものと、3人とするものがある①。

[A] 原始聖典

- ① ‘Buddhavaṃsa’ 26-15 (p.098)；Bhaddakaccāと名づけるものが夫人で、Rāhulaと名づけるものが実子である。
- ① ‘Apadāna’ 04-03-028 (p.585)；私ヤソーダラー（Yasodharā）は家にあっては宮女で、釈迦族に生まれ、勇者よ（vīra）、それからあなたの妻となった（itthi atho patiṭṭhitā）。
- ① ‘Apadāna’ 04-03-029 (p.591)；ディーパンカラ仏はスメダ（Sumedha=釈尊）とスミッター（Sumittā=Yasodharā）が未来に夫婦となって、苦楽を共にすると記別された。
- ①根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.720下）；世尊為菩薩時、便捨宝女耶輪陀羅（持称亦云具称）、瞿比迦（密語也）、密伽闍（鹿子也）等六萬婬女而為出俗。
- ①根本有部律「破僧事」（大正24 p.111下）；時執仗釈種有一童女、名耶輪陀羅。……時王即遣二萬婬女、圍遶耶輪陀羅、入太子宮内。
- ①根本有部律「破僧事」（大正24 p.112下）；時有釈迦女名喬比迦住鍾声聚落。在於高閣上遊觀。菩薩入城遙見女遂以脚指以压其車。車便不轉。其女遙見菩薩念於心菩薩手中先有鐵杵以指撚之遂便微碎。喬比迦女觀視菩薩以脚指捺樓其闍遂穴。諸人見已作是念言。此之釈女必能善得菩薩之心。時淨飯王聞此語已、即迎喬比迦女并二萬婬女侍從入宮。
- ①根本有部律「破僧事」（大正24 p.114中）；爾時菩薩既至城内有一釈迦種名不過。時有其一女名曰鹿王。於樓窓中遙見菩薩、讚歎頌曰  
安樂乳母生 安樂父能養 彼女極安樂 当與汝為妻

菩薩聞此、其心寂入涅槃聲義、唯聞言曰。汝最勝人當思惟寂靜涅槃。菩薩聞此涅槃聲愛念歡喜。聞妙聲故即脫頸上珠璣擲於空中。以威力故遂落鹿王女頸上。諸人見此皆大歡喜。白淨飯王具陳上事。王聞此語。即令二萬婁女迎鹿王女。將入太子宮內。彼時菩薩有三夫人。一名鹿王、二名喬比迦、三名耶輸陀羅。其耶輸陀羅最為上首。

⑫法賢訳「阿羅漢具德經」(大正02 p.833下)；宿植良因具大福德羅睺羅母耶輸陀羅苾芻尼是。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.058, 南伝28 p.123)；(年16歳の頃、王は菩薩の為に三宮殿を建てさせる【013】)時候に応じてこれ等の宮殿の一つに住われた。羅睺羅の母(Rāhulamātā)はその第一の妃であった。
- ②修行(大正03 p.465中)；至年十七。……有一臣言、太子已大、宜當娶妻以廻其志。王為太子、採扨名女無可意者。有小國王、名須波佉(漢言善覺)。有女名裘夷。
- ②修行(大正03 p.466上)；太子迎妃以來、意志云何。……即復為娉妙女、一名衆稱味、二名常樂意。
- ④瑞応(大正03 p.475上)；太子至年十七、王為納妃。……最後一女、名曰瞿夷、……是則宿命賣華女也。
- ⑤異出(大正03 p.619上)；太子年二十、王欲為太子娶婦、……名曰俱夷。太子曰。吾欲娶是女、……是女平生可持華賣與菩薩者、宿命時、字俱夷、今生統字俱夷。
- ⑥普曜(大正03 p.500上)；白淨王曰、且當觀之、何所玉女宜応太子妃。……執杖積種家生。……時積家女名曰俱夷。
- ⑦方広(大正03 p.561上)；爾時菩薩年既長大。……時諸積種白大王言、……応為求婚令生染着。……有一大臣名為執杖、其人女名耶輸陀羅。
- ⑧LV. (Lef. p.136, 外蘭・梵 p.550, 外蘭・訳 p.899~904)；王子が〔更に〕成長したる、ある時に、……シャーキヤ(Śākya)族の男女の長老たる者たちは、……「……王子の婚儀を執り行なうが至當なり、……快樂を享受し、出家することなからん……」……ダングパーニ(Daṅḍapāṇi 執杖)積種の娘にしてゴーパー(Gopā)と名づける積女……。
- ⑩十二(大正04 p.146下)；菩薩外家去城八百里、姓瞿曇氏……戸名一億王。菩薩婦家姓瞿曇氏、舍夷長者名水光、其婦母名月女。……瞿夷者是太子第一夫人、其父名水光長者。太子第二夫人生羅云者名耶惟檀、其父名移施長者。第三夫人名鹿野、其父名積長者。
- ⑪仏讚(大正04 p.004中)；父王…… 広訪名豪族 風教禮義門 容姿端正女 名耶輸陀羅 応嫂太子妃 誘導留其心
- ⑫BC. (02-26)；そこで、王は息子のために、きちんとしたお家柄から……ヤショーダラー(Yaśodharā)という名前の、よいお嬢さんを、「美女(Vāmā)」と名づける幸福の女神(Śrī)として迎えたのであった。
- ⑬行経(大正04 p.062中)；王然此義 即召美女 十五以上 …… 尋致諸女 充太子宮 …… 執杖積種女 …… 是故号除称 …… 過去五百世 曾為太子妻 …… 父母授女 為太子妃
- ⑭過去(大正03 p.629中)；爾時太子、至年十七。王集諸臣、宜應為其訪索婚所。諸臣答言、有一積種婆羅門、名摩訶那摩、其人女、名耶輸陀羅。
- ⑮集経(大正03 p.707下)；婆私吒族積種大臣摩訶那摩、其女名為耶輸陀羅。
- ⑮集経(大正03 p.713下)；有一積種大臣、姓檀荼氏。……時彼波尼有於一女、名瞿多彌。
- ⑮集経(大正03 p.715中)；第二宮中、摩奴陀羅(隋言意持)而為上首。
- ⑯MV. (vol. II p.048, Jones II p.045)；王は王子のために広大な後宮(antaḥpura)を用意し、若い女性を王宮に集め、王子から宝石を彼女達に分け与えとの布告を出させる。積種マハーナー

マン (Mahānāman) の娘ヤショードラー (Yaśodharā) は輝いてやってきて王子にはにかみながら触れる。

- ⑰衆許 (大正03 p.942下) ; 爾時有一童女名耶輸陀羅。……太子見是童女視相妙勝身有光明、心大歡喜下師子座、……耶輸陀羅同入宮室。……。釈種伽吒儼里有一女名娛閉迦。在高楼上、忽見太子身相端嚴心生戀仰、……娛閉迦女令入王宮。……。時有釈種名迦羅叉摩、其女名蜜里譏惹。瞻見太子威儀尊重。而與讚歎、……蜜里譏惹女入於王宮。爾時太子有三夫人、耶輸陀羅、娛閉迦、蜜里譏惹。及六萬宮人朝夕供侍、心無愛着專求捨棄。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.006上) ; 王曰。何所王女宜太子妃、……釈女俱夷……。 (出普曜經)  
 ①釈迦 (大正50 p.010中) ; 第一夫人……第二夫人……第三夫人。 (出十二遊經)  
 ①釈迦 (大正50 p.020中) ; 爾時太子年至十七、王集諸臣……。 (出因果經)  
 ②歴代 (大正49 p.023中) ; 六年庚戌年十七、納妃求夷。  
 ③氏譜 (大正50 p.090中) ; 経云。太子十七王乃訪婚、釈種婆羅門有女、禮儀備挙便迎至宮。  
 ④統紀 (大正49 p.143下) ; 四十二年 (庚午) 太子十七歳……釈種婆羅門摩訶那摩有女、名耶輸陀羅、顔色端正智慧過人。王即遣使往迎、為太子妃。太子常修禪觀、未嘗與妃有夫婦道……太子有三夫人。一瞿夷、二耶惟檀、三鹿野。  
 ⑤JM. (p.027, 畑中 p.102) ; さて、摩訶薩はやがて16才になった。釈氏たちもまた自分の娘たちを嚴飾して4万人の舞娘たちと共に、妻として仕えるために送った。彼女たちのうち、ラーフラ (Rāhula) の母となるバツダカッチャナー (Bhaddakaccānā) 妃が第一夫人となった。  
 ⑥Bigandet. (vol. I p.052, 赤沼 p.069) ; 太子がその従妹にして、かの善覺長者と甘露女との間に生れた耶輸陀羅 (Yathaudara) 姫を娶り給うたのはこの時であった。 (十六才)

(1) 1人とするものは [B] の④⑤⑥⑦⑧⑩⑫⑬⑭⑯、3人とするものは [A] の⑪、 [B] の②⑩⑮⑰である。

【12-02】結婚——婿選びの種々の競技

妃にしようとした女性の父親が婿には武術に秀でたものを望んだため、菩薩が提婆や難陀と力比べをする。

[A] 原始聖典

- \*⑩根本有部律「破僧事」 (大正24 p.111下) ; 時執杖釈種有一童女、名耶輸陀羅。容色端正世所希有。執杖釈種即還家中告其女曰。今者太子施諸童女珠宝珍奇嚴好之具、汝可往取。其女報曰。我之家中豈無此耶。何用他物。父告女曰。然彼太子雖施珍宝、或因愛樂便以為妃。女曰。若因此時便為妃者縱取余女我必当得為其太妃。

[B] 仏伝經典

- ②修行 (大正03 p.465中) ; 善覺聽之、表白浄王。女即七日、自出求処國中勇武技術最勝者、爾乃為之。……太子即與優陀難陀調達阿難等五百人、執持禮樂射藝之具。当出城門、安置一象。……相撲……射決……力人王……。  
 ⑥普曜 (大正03 p.500下) ; 時執杖釈種言。我等本性有藝術者、乃嫁與女。……皆出城門。於是調達手執牽象來入城門、……持鼻撲捏殺之。……宣説六十四種書。……計校算術……手博……試

射……。

- ⑦方広（大正03 p.562中）；爾時執杖報国師言。自我家法積代相承、若有伎能過於人者、以女妻之。……算術……相撲……試射……權捷騰跳、競走越逸、……人間一切伎能及過人上、諸天伎藝、皆悉通達。
- ⑧LV. (Lef. p.143, 外蘭・梵 p.562, 外蘭・訳 p.905) ; ダンダパーニ (Daṇḍapāṇi) は言えり。「われらには、この家訓あり。『伎芸を知る者に娘を与うべし……』……」……(デーヴァダッタ (Devadatta) が象を殺害、菩薩足の拇指もて城外へ投げる。) ……書……算術……格闘……弓術……かくの如き……世俗的なる〔伎芸〕、〔及び〕天界・人界を超越せる伎芸の、すべてにおいて、菩薩のみが勝利せり」
- ⑨集経（大正03 p.708下）；時釈大臣報国師言。我釈迦法、相承如是、若有技能勝一切者、於彼人辺即嫁女與。……手筆……計算……射鞞……諸象技……馬上……相撲。……大白象、為於提婆達多所殺、……以殺白象。……大臣摩訶那摩、見於太子一切技藝、勝妙智能、最為上首。
- ⑩MV. (vol. II p.073, Jones II p.070) ; 王はマハーナーマン (Mahānāman) に彼の娘を王子にもらいたいとの使いを出す、マハーナーマンはこれを断る。何故ならば、王子は武芸において秀でていないから。王は七日後 (saptamaṃ divasaṃ) 競技を行うと布告する。入場途中、デーヴァダッタ (Devadatta) が象を殺す。……すべての競技で王子に匹敵するものはなかった。

### [C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.006中）；執杖釈言、我等本姓有芸術者乃嫁與之。（出普曜経）

#### 【13】三つの宮殿に住む

菩薩が雨期・冬期・夏期の三つ（あるいは春夏秋冬の四つ）の時候に応じた宮殿に住む。

### [A] 原始聖典

- ①MN.075 ‘Māgandiya-s.’ (vol. I p.504) ; マーガンディヤよ、私には3つの宮殿があった (tassa mayhaṃ Māgandiya tayo pāsādā ahesuṃ) 。1つは雨期 (vassika) の、1つは冬 (hemantika) の、1つは夏の (gimhika) ものである。
- ②AN.03-38 (vol. I p.145) ; 比丘らよ、私に3つの宮殿があった (tassa mayhaṃ bhikkhave tayo pāsādā ahesuṃ) 。1つは冬の (hemantika) 、1つは夏の (gimhika) 、1つは雨期の (vassika) ものである。
- ③‘Buddhavaṃsa’ 26-14 (p.098) ; Ramma, Suramma, Subhakaという3つの最上の宮殿があった。
- ④中阿含117（大正01 p.607下）；我在父王悦頭檀家時、為我造作種種宮殿、春殿・夏殿及以冬殿。為我好遊戯故去殿不遠、復造種種若干華池。
- ⑤僧祇律「单提042」（大正22 p.365中）；如来柔軟楽人無有能過。父王為作三時殿春夏冬。如柔軟線經中広説。
- ⑥根本有部律「破僧事」（大正24 p.111中）；若却後十二年中不出家者、必当登彼轉輪王位。時白淨王、聞斯相語甚大喜躍、即集群臣而告之曰。我聞相者相我太子、却後十二年中不出家者、当得轉輪王位。汝等諸人宜加防衛、滿十二年勿令出家。……汝等应当速立宮殿簡求美女令共娛樂。……
- \*⑦DN.014 ‘Mahāpadāna-s.’ (大本経 vol. II p.021) ; 王はビパッシン太子のために三宮殿を建てた (tayo pāsāde kārāpesi) 。

\*⑦四分律「受戒捷度」(大正22 p.782下) ; (定光菩薩) 至十五十六。時王即為設三時殿。冬夏春給二萬婬女、使娛樂之……。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.058, 南伝28 p.123) ; それから次第に生長して、菩薩は年16歳の頃 (soḷasavassapadesika) になられた。王は菩薩のために三つの時候に適した三つの宮殿を建てさせた。その一つは九階建、一つは七階建、一つは五階建であった。
- ②修行 (大正03 p.465上) ; 於是王深知其能相、為起四時殿。春秋冬夏、各自異処。
- ④瑞応 (大正03 p.474上) ; 王深知其能相、為起宮室、作三時殿。各自異処、雨時居秋殿、暑時居涼殿、寒雪時居温殿。
- ⑥普曜 (大正03 p.496中) ; 王深知其能相、為起宮室作三時殿。各自異処、涼時居秋殿、暑時居涼殿、寒雪時居温殿。
- ⑦方広 (大正03 p.569下) ; 時輪檀王為菩薩改造三時殿。一者温煖以御隆冬、二者清涼以当炎暑、三者適中不寒不熱。
- ⑧LV. (Lef. p.186, 外蘭・梵 p.670, 外蘭・訳 p.974) ; それからシュッドーダナ (Śuddhodaṇa) 王は、王子の享樂のために夏季と雨季と冬季との季節に応じたる三つの宮殿を建立せしめたり。そこにおいてかの夏季殿なるものはもっぱら清涼……雨季殿は冷暖均等……冬季殿は自然に温暖なりき。
- ⑩十二 (大正04 p.146下) ; 以有三婦故、太子父王為立三時殿。
- ⑬行經 (大正04 p.063上) ; 種種嚴飾 猶如天宮 春秋冬夏 四時各異 応節修治
- ⑭過去 (大正03 p.627下) ; 爾時白淨王、……慮恐出家、……別為起三時殿。温涼寒暑、各自異処。
- ⑮集經 (大正03 p.707上) ; 爾時太子漸向長成、至年十九。時淨飯王為於太子、造三時殿。一者暖殿、以擬隆冬。第二殿涼、擬於夏暑。其第三殿、用擬春秋二時寢息。
- ⑮集經 (大正03 p.715中) ; 時淨飯王、為其太子立三等宮。(三夫人をそれぞれに配す)
- ⑯MV. (vol. II p.115, Jones II p.111) ; 私は細心をはらって育てられた。王は私のために三つの宮殿を建てさせた。一つは寒期用 (hemantika)、一つは暖期用 (griṣmika)、一つは雨期用 (vārṣika) として。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.006上) ; 王深知其能相、為作三時殿。(出普曜經)
- ①釈迦 (大正50 p.018下) ; 又復別為起三時殿。温涼寒暑、各自異処。
- ③氏譜 (大正50 p.090上) ; 經云。王時聞仙決定説已、慮恐出家……起三時殿。……
- ④統紀 (大正49 p.142中) ; 王聞仙説、慮恐出家、起三時殿。
- ④統紀 (大正49 p.143下) ; 以有三婦、為立三時殿。
- ⑤JM. (p.027, 畑中 p.102) ; 菩薩は彼女たちに奉仕されながら、3つの季節にふさわしいCanda、Kokanuda、Koñcaという名の3つの高樓において贅沢を享受した。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.051, 赤沼 p.069) ; 菩薩が十六歳に達し給うた時、父王は王子のために、三時殿を作るように命令を下された。

仏伝諸経典および仏伝関係諸資料のエピソード別出典要覧

仏伝諸経典および仏伝関係諸資料のエピソード別出典要覧

仏伝諸経典および仏伝関係諸資料のエピソード別出典要覧

仏伝諸経典および仏伝関係諸資料のエピソード別出典要覧

